
第 4 章 . 資料編

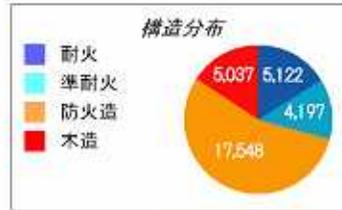
資料 1 市街地性能指標の出力図一覧

図面番号	図面名称	集計単位	備考
図資-1	外周道路, 避難所, 消防水利, 建物構造	現況	建物
		整備後(案)	
図資-2	クラスター生成状況	現況	建物
		整備後(案)	
図資-3	消防活動危険度マップ	現況	街区
		整備後(案)	
図資-4	救出活動危険度マップ	現況	街区
		整備後(案)	
図資-5	避難活動危険度マップ	現況	街区
		整備後(案)	
図資-6	全壊確率分布	現況	建物
		整備後(案)	
図資-7	防火総合性能指標 E_f (燃えないまちづくりの性能指標)	現況	建物
		整備後(案)	
図資-8	避難総合性能指標 E_e (壊れないまちづくりの指標)	現況	建物
		整備後(案)	
図資-9	総合性能指標 E (防災まちづくりの総合的な指標)	現況	建物
		整備後(案)	
図資-10	防火総合性能指標 E_f (燃えないまちづくりの性能指標)	現況	街区
		整備後(案)	
図資-11	避難総合性能指標 E_e (壊れないまちづくりの指標)	現況	街区
		整備後(案)	
図資-12	総合性能指標 E (防災まちづくりの総合的な指標)	現況	街区
		整備後(案)	
図資-13	防火総合性能指標 E_f (燃えないまちづくりの性能指標)	現況	防災区画
		整備後(案)	
図資-14	避難総合性能指標 E_e (壊れないまちづくりの指標)	現況	防災区画
		整備後(案)	
図資-15	総合性能指標 E (防災まちづくりの総合的な指標)	現況	防災区画
		整備後(案)	

現況

地区面積(ha)	838
建物数	31,905
建物棟数密度(棟/ha)	38.07
一時避難場所	21地区
外周道路延長(Km)	20.28
消防水利施設	146.00

- ◆避難所
避難地周りの広幅員路線と運動場として指定されている小中学校の通用門位置の道路を指定。
- ◆消防水利
隣接する道路幅員が7.5m以上の防火水槽と地中張り水櫃を有効水利とした。



- 防災関連施設
- 外周道路
 - 避難所
 - 消防水利

整備後(案)

地区面積(ha)	838
建物数	31,567
建物棟数密度(棟/ha)	37.67
一時避難場所	21地区
外周道路延長(Km)	23.66
消防水利施設	151

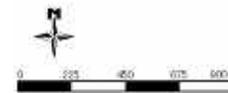
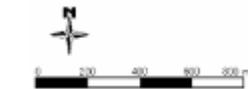
- ◆外周道路
幅員15m以上の連続する道路と、雲田区の不燃化促進事業において避難路と位置づけられている路線とした。
- ◆避難所
避難地周りの広幅員路線と運動場として指定されている小中学校の通用門位置の道路を指定。
- ◆消防水利
隣接する道路幅員が7.5m以上の防火水槽と地中張り水櫃を、有効水利とした。



- 防災関連施設
- 外周道路
 - 避難所
 - 消防水利

- 整備計画
- 主要生活道路
 - 放幅・沿道建替
 - 都市計画道路
 - 結構・沿道建替
 - 現行計画路線
 - 建物除却・道路整備

170



注) 延焼に関するシミュレーションでは、すでに存在している木造の準耐火造は、施工上の問題から十分な防火性能が期待できない可能性が高いので、安全側をみて、防火木造と同等の性能を有するものとしている。一方で、整備後(案)で新規に建設する事を想定している準耐火造については、適正な施工がなされることを前提に、木造の準耐火造はS造(鉄骨造)の準耐火造と同等の防火性能を有するものとしている。

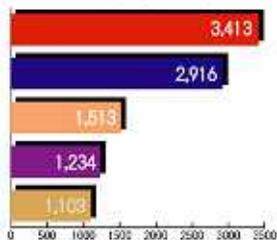
図 資-1 外周道路, 避難所, 消防水利, 建物構造

現況

◆算出手法
構造、建築面積を考慮した延焼限界距離を定義／隣棟間隔が「延焼限界距離」以内の建物により構成される建物群（延焼クラスター）を生成する。
※この延焼クラスターに耐火確率を付与し、延焼クラスターを構成する各建物の焼失確率を求める。／（1-焼失確率）が燃えない確率となる。

◆設定条件
風向風速：0m（無風状態）
出火確率：0.00004（一律）

クラスター構成建物数 Top.5

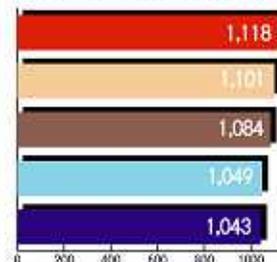


整備後(案)

◆算出手法
構造、建築面積を考慮した延焼限界距離を定義／隣棟間隔が「延焼限界距離」以内の建物により構成される建物群（延焼クラスター）を生成する。
※この延焼クラスターに耐火確率を付与し、延焼クラスターを構成する各建物の焼失確率を求める。／（1-焼失確率）が燃えない確率となる。

◆設定条件
風向風速：0m（無風状態）
出火確率：0.00036（一律）

クラスター構成建物数 Top.5



整備計画

- 主要生活道路
- 延焼・沿道建築
- 都市計画道路
- 延焼・沿道建築
- 駅周辺等開発
- 建物群等・道路整備

171

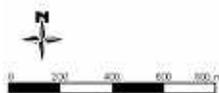


図 資-2 クラスタ生成状況

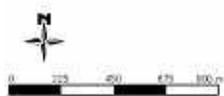
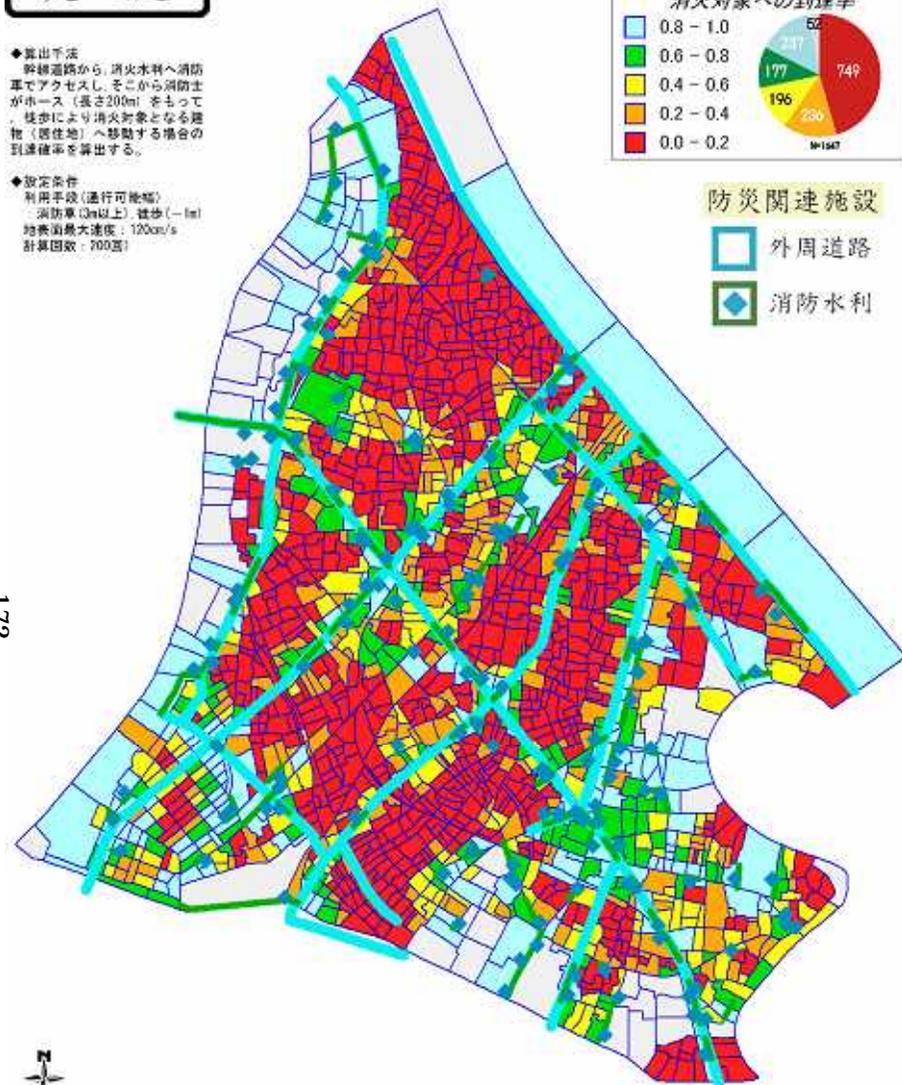
現況

- ◆算出手法
幹線道路から、消火水利へ消防車でアクセスし、そこから消防士がホース（長さ200m）をもって、徒歩により消火対象となる建物（居住地）へ移動する場合の到達確率を算出する。
- ◆設定条件
利用手段（通行可能幅）：
消防車（3m以上）、徒歩（-1m）
地表面最大速度：120cm/s
計算回数：700回



防災関連施設

- 外周道路
- ◆ 消防水利



整備後(案)

- ◆算出手法
幹線道路から、消火水利へ消防車でアクセスし、そこから消防士がホース（長さ200m）をもって、徒歩により消火対象となる建物（居住地）へ移動する場合の到達確率を算出する。
- ◆設定条件
利用手段（通行可能幅）：
消防車（3m以上）、徒歩（-1m）
地表面最大速度：120cm/s
計算回数：200回

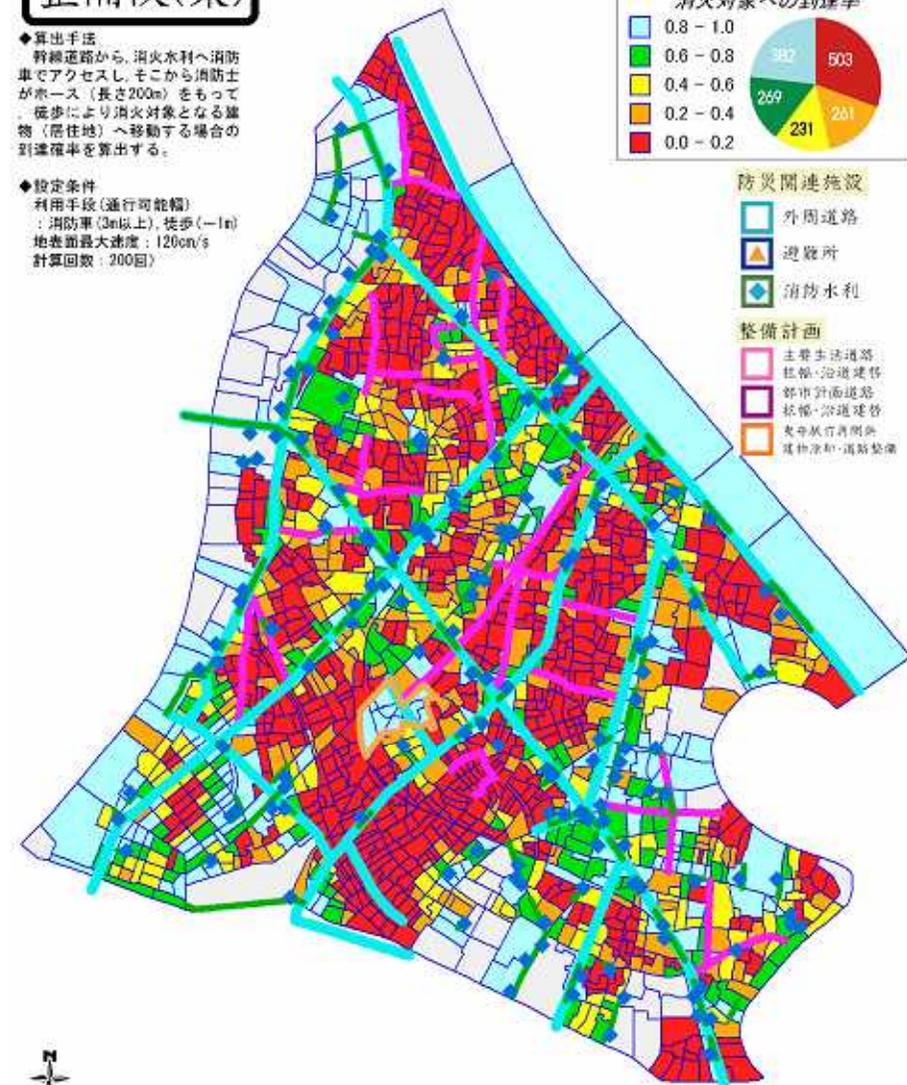


防災関連施設

- 外周道路
- ▲ 避難所
- ◆ 消防水利

整備計画

- 主要市道道路
緑幅・沿道建替
- 都市計画道路
緑幅・沿道建替
- 支那状行路側
建物冷却・道路整備



172

図 資-3 消防活動危険度マップ

現況

◆算出手法
幹線道路（外周道路）から、救出対象となる建物（居住地）への到達確率を算出する。移動には救出用機材を積んだ小型車でアクセスする事を想定。

◆設定条件
利用手段（通行可能幅）
：担架（75cm以上）
地表面最大速度：120cm/s
計算回数：200回



防災関連施設

外周道路



整備後(案)

◆算出手法
幹線道路（外周道路）から、救出対象となる建物（居住地）への到達確率を算出する。移動には救出用機材を積んだ小型車でアクセスする事を想定。

◆設定条件
利用手段（通行可能幅）
：担架（75cm以上）
地表面最大速度：120cm/s
計算回数：200回



防災関連施設

外周道路

整備計画

主要生活道路
：拡幅・沿道建替
都市計画道路
：拡幅・沿道建替
支那製炭再閉鎖
：建物除却・道路整備



図 資-4 救出活動危険度マップ

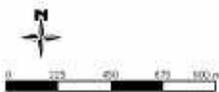
現況

◆算出手法
居住地から避難場所への到達
確率を算出する。移動には負傷
者や要援護者を考慮して、担架
の使用を想定。

◆設定条件
利用手段(通行可能幅)
：担架(75cm以上)
地表面最大速度：120cm/s
計算回数：200回



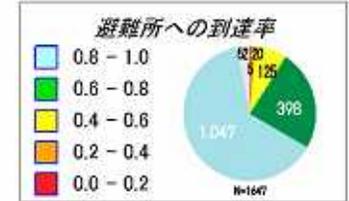
防災関連施設



整備後(案)

◆算出手法
居住地から避難場所への到達
確率を算出する。移動には負傷
者や要援護者を考慮して、担架
の使用を想定。

◆設定条件
利用手段(通行可能幅)
：担架(75cm以上)
地表面最大速度：120cm/s
計算回数：200回



防災関連施設



整備計画



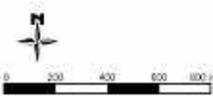
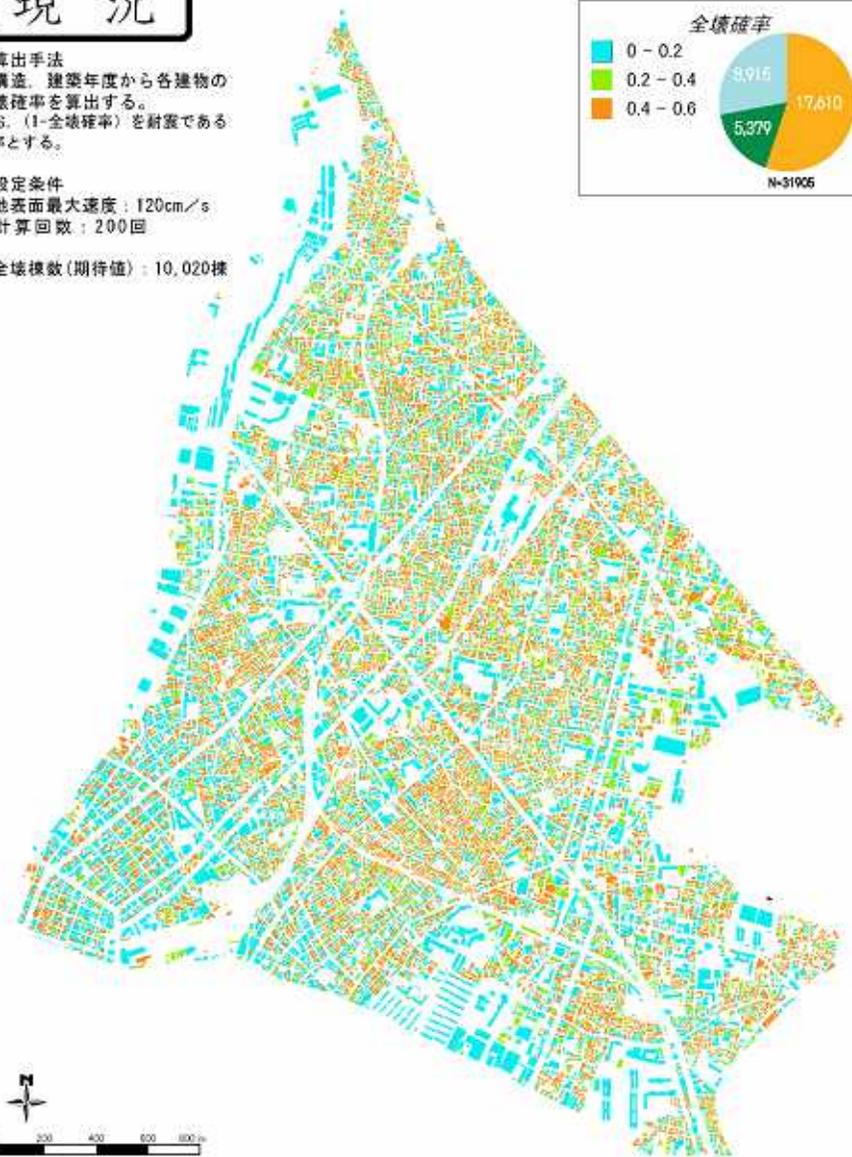
図 資-5 避難活動危険度マップ

現況

◆算出手法
構造、建築年度から各建物の全壊確率を算出する。
なお、(1-全壊確率)を耐震である確率とする。

◆設定条件
地表面最大速度：120cm/s
計算回数：200回

※全壊棟数(期待値)：10,020棟



整備後(案)

◆算出手法
構造、建築年度から各建物の全壊確率を算出する。
なお、(1-全壊確率)を耐震である確率とする。

◆設定条件
地表面最大速度：120cm/s
計算回数：200回

※全壊棟数(期待値)：9,617棟



整備計画

- 主要生活道路
拡幅・沿道建替
- 都市計画道路
拡幅・沿道建替
- 免許駅前再開発
建物除却・道路整備

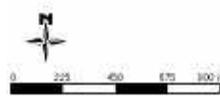


図 資-6 全壊確率分布

現況

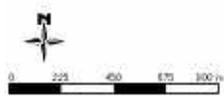
$$Ef = \frac{1}{n} \sum (Pfp + (1 - Pfp) \cdot Pf \cdot Wf(Pfp))$$

Pfp 燃えない割合
 Pf 防火区画がけできる割合
 $Wf(Pfp)$ 防火区画がけする効果



防災関連施設

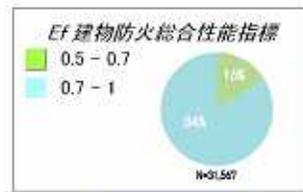
- 外周道路
- 消防水利



整備後(案)

$$Ef = \frac{1}{n} \sum (Pfp + (1 - Pfp) \cdot Pf \cdot Wf(Pfp))$$

Pfp 燃えない割合
 Pf 防火区画がけできる割合
 $Wf(Pfp)$ 防火区画がけする効果



防災関連施設

- 外周道路
- 消防水利

整備計画

- 主要生活道路
拡幅・沿道建替
- 都市計画道路
拡幅・沿道建替
- 支線道路
建物除却・道路整備

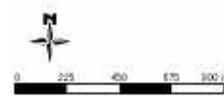


図 資-7 防火総合性能指標 Ef (燃えないまちづくりの指標) 建物単位

現況

$$E_e = \frac{1}{n} \sum (P_e \cdot \frac{1}{2} - P_{be}) \cdot Pr - Wb(P_{be}) + P_{be}$$

Pr 避難行動の発生率
 P_e 避難行動の発生率
 P_{be} 避難行動の発生率
 Wb(P_{be}) 避難行動の発生率



防災関連施設

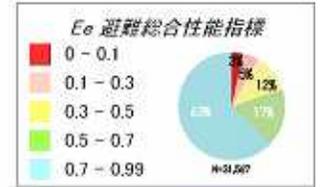
- 外周道路
- 避難所



整備後(案)

$$E_e = \frac{1}{n} \sum (P_e \cdot \frac{1}{2} - P_{be}) \cdot Pr - Wb(P_{be}) + P_{be}$$

Pr 避難行動の発生率
 P_e 避難行動の発生率
 P_{be} 避難行動の発生率
 Wb(P_{be}) 避難行動の発生率



防災関連施設

- 外周道路
- 避難所

整備計画

- 主要生活道路
拡幅・沿道建替
- 都市計画道路
拡幅・沿道建替
- 支線駅前再開発
建物新築・道路整備



図 資-8 避難総合性能指標 E_e (壊れないまちづくりの指標) 建物単位

現況

$$E = E_f \cdot E_e$$

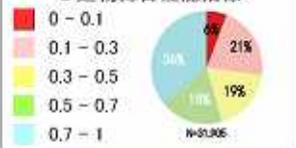
$$E_f = \frac{1}{n} \sum (Pfp + (1 - Pfp) \cdot Pff \cdot Wf(Pfp))$$

Pfp 耐火等級
 Pff 防災設備の有無
 $Wf(Pfp)$ 耐火等級による係数

$$E_e = \frac{1}{n} \sum (Pec \cdot \{1 - Pbc\} \cdot Prc \cdot Wb(Pbc) + Pbr)$$

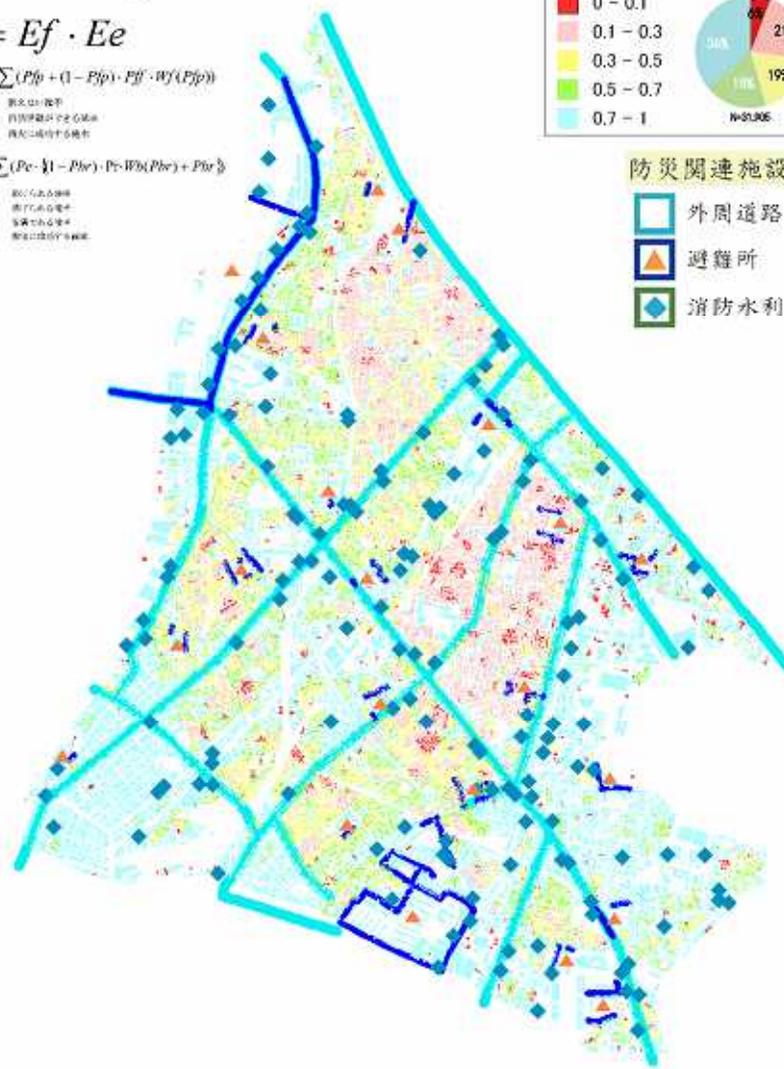
Prc 耐火等級
 Pec 耐火等級
 Pbr 避難設備の有無
 $Wb(Pbc)$ 耐火等級による係数

E 建物総合性能指標



防災関連施設

- 外周道路
- 避難所
- 消防水利



整備後(案)

$$E = E_f \cdot E_e$$

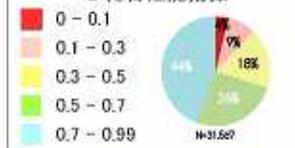
$$E_f = \frac{1}{n} \sum (Pfp + (1 - Pfp) \cdot Pff \cdot Wf(Pfp))$$

Pfp 耐火等級
 Pff 防災設備の有無
 $Wf(Pfp)$ 耐火等級による係数

$$E_e = \frac{1}{n} \sum (Pec \cdot \{1 - Pbc\} \cdot Prc \cdot Wb(Pbc) + Pbr)$$

Prc 耐火等級
 Pec 耐火等級
 Pbr 避難設備の有無
 $Wb(Pbc)$ 耐火等級による係数

E 総合性能指標



防災関連施設

- 外周道路
- 避難所
- 消防水利

整備計画

- 主要生活道路
拡幅・沿道建替
- 都市計画道路
拡幅・沿道建替
- 支線計画道路
建築物取壊・道路整備



図 資-9 総合性能指標 E (防災まちづくりの総合的な指標) 建物単位

現況

$$Ef = \frac{1}{n} \sum (P_{fp} + (1 - P_{fp}) \cdot P_{ff} \cdot W_f(P_{fp}))$$

P_{fp} 燃えない率
 P_{ff} 消防活動が可能な率
 $W_f(P_{fp})$ 燃えにくい率



防災関連施設

- 外周道路
- 消防水利



整備後(案)

$$Ef = \frac{1}{n} \sum (P_{fp} + (1 - P_{fp}) \cdot P_{ff} \cdot W_f(P_{fp}))$$

P_{fp} 燃えない率
 P_{ff} 消防活動が可能な率
 $W_f(P_{fp})$ 燃えにくい率



防災関連施設

- 外周道路
- 消防水利

整備計画

- 主要生活道路
沿路・沿道建替
- 都市計画道路
沿路・沿道建替
- 史跡駅前再開発
建築物耐震補強



図 資-10 防火総合性能指標 Ef (燃えないまちづくりの指標) 街区単位

現況

$$E_e = \frac{1}{N} \sum (P_e \cdot \frac{1}{2} (1 - P_{br}) - P_e W_1(P_{br}) + P_{br})$$

N 街区数
 P_e 逃げやすさ
 P_{br} 逃げにくさ
 $W_1(P_{br})$ 逃げにくさの加重



防災関連施設

- 外周道路
- 避難所



整備後(案)

$$E_e = \frac{1}{N} \sum (P_e \cdot \frac{1}{2} (1 - P_{br}) - P_e W_1(P_{br}) - P_{br})$$

N 街区数
 P_e 逃げやすさ
 P_{br} 逃げにくさ
 $W_1(P_{br})$ 逃げにくさの加重



防災関連施設

- 外周道路
- 避難所

整備計画

- 主要生活道路
拡幅・沿道建替
- 都市計画道路
拡幅・沿道建替
- 支那駅沿道開閉
建物併用・道路整備

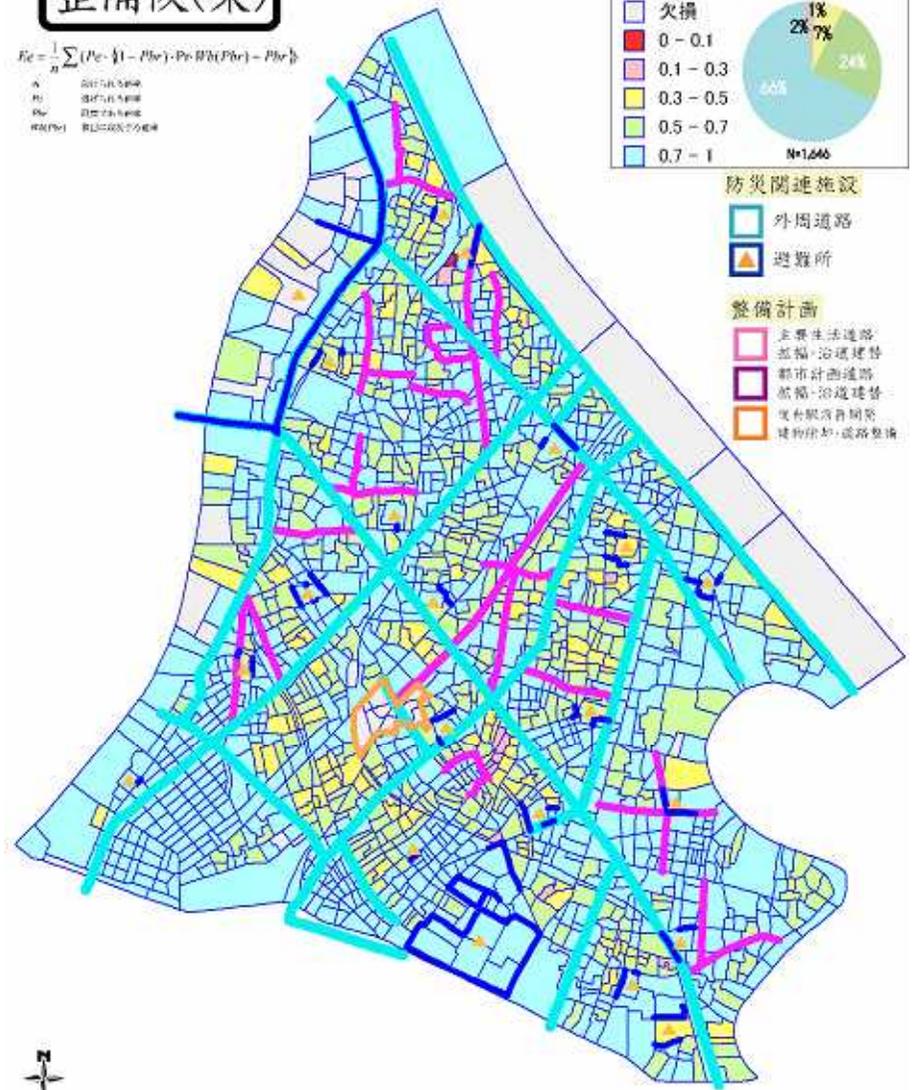


図 資-11 避難総合性能指標 E_e (壊れないまちづくりの指標) 街区単位

現況

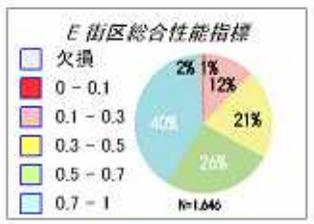
$$E = E_f \cdot E_e$$

$E_f = \frac{1}{n} \sum (Pp + (1 - Pp) \cdot Pp \cdot W(Pp))$

 Pp 平均性能指標
 W 性能指標の加重係数
 n 街区数

 $E_e = \frac{1}{n} \sum (Pe \cdot \{1 - Pbr\} \cdot Pe \cdot W(Pbr) + Pbr)$

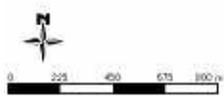
 Pe 平均性能指標
 W 性能指標の加重係数
 n 街区数
 Pbr 避難所性能指標
 $W(Pbr)$ 避難所性能指標の加重係数



- 防災関連施設**
- 外周道路
 - 避難所
 - 消防水利



181



整備後(案)

$$E = E_f \cdot E_e$$

$E_f = \frac{1}{n} \sum (Pp + (1 - Pp) \cdot Pp \cdot W(Pp))$

 Pp 平均性能指標
 W 性能指標の加重係数
 n 街区数

 $E_e = \frac{1}{n} \sum (Pe \cdot \{1 - Pbr\} \cdot Pe \cdot W(Pbr) + Pbr)$

 Pe 平均性能指標
 W 性能指標の加重係数
 n 街区数
 Pbr 避難所性能指標
 $W(Pbr)$ 避難所性能指標の加重係数



- 防災関連施設**
- 外周道路
 - 避難所
 - 消防水利
- 整備計画**
- 主要生活道路 拡幅・沿道整備
 - 都市計画道路 拡幅・沿道整備
 - 支線計画道路 拡幅・沿道整備

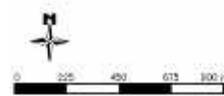
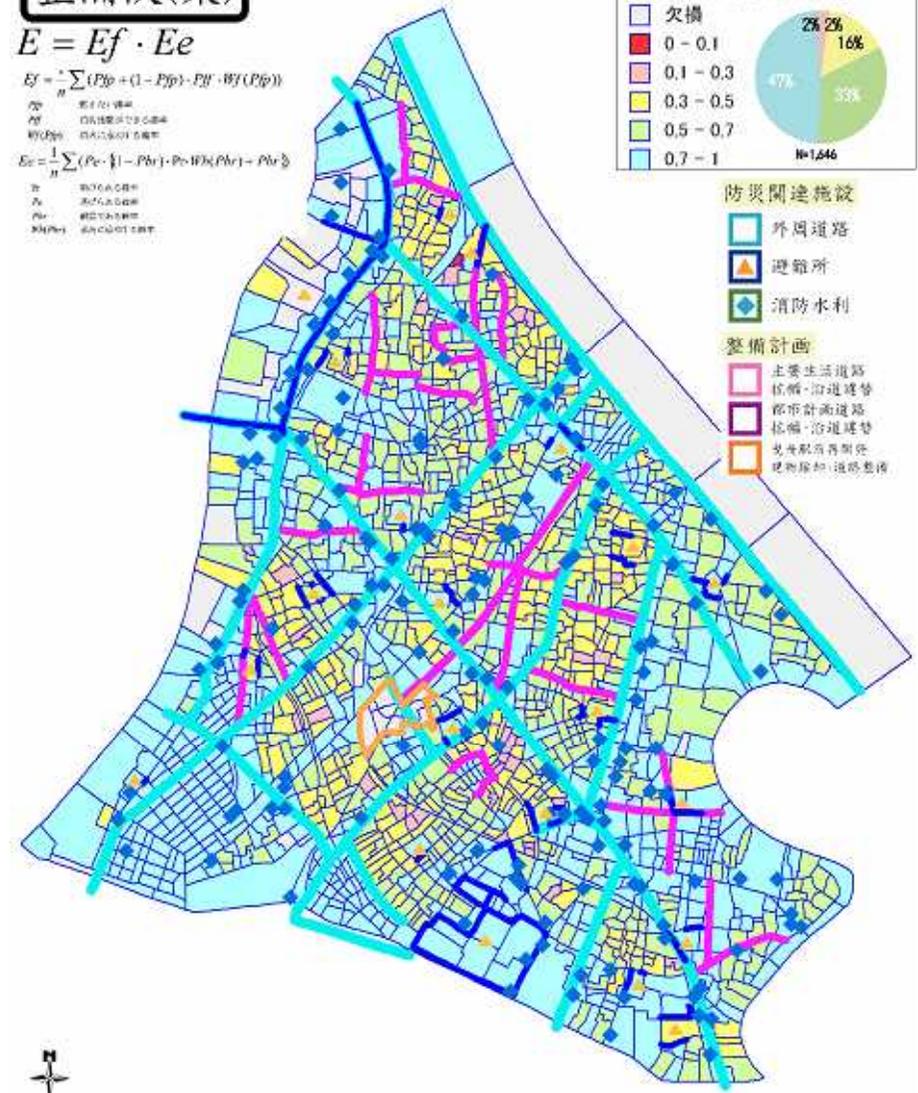


図 資-12 総合性能指標 E (防災まちづくりの総合的な指標) 街区単位

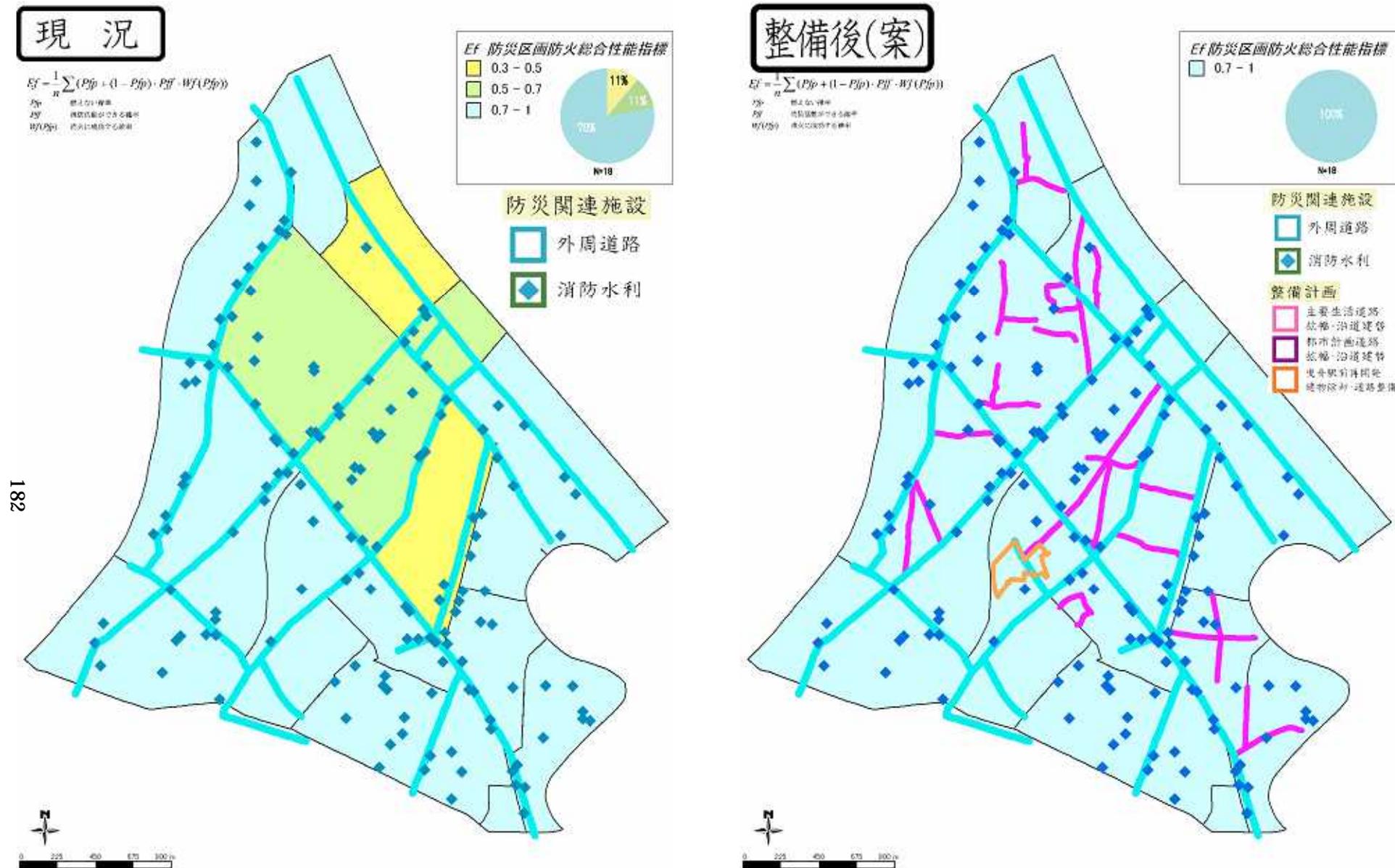


図 資-13 防火総合性能指標 Ef (燃えないまちづくりの指標) 防災区画単位

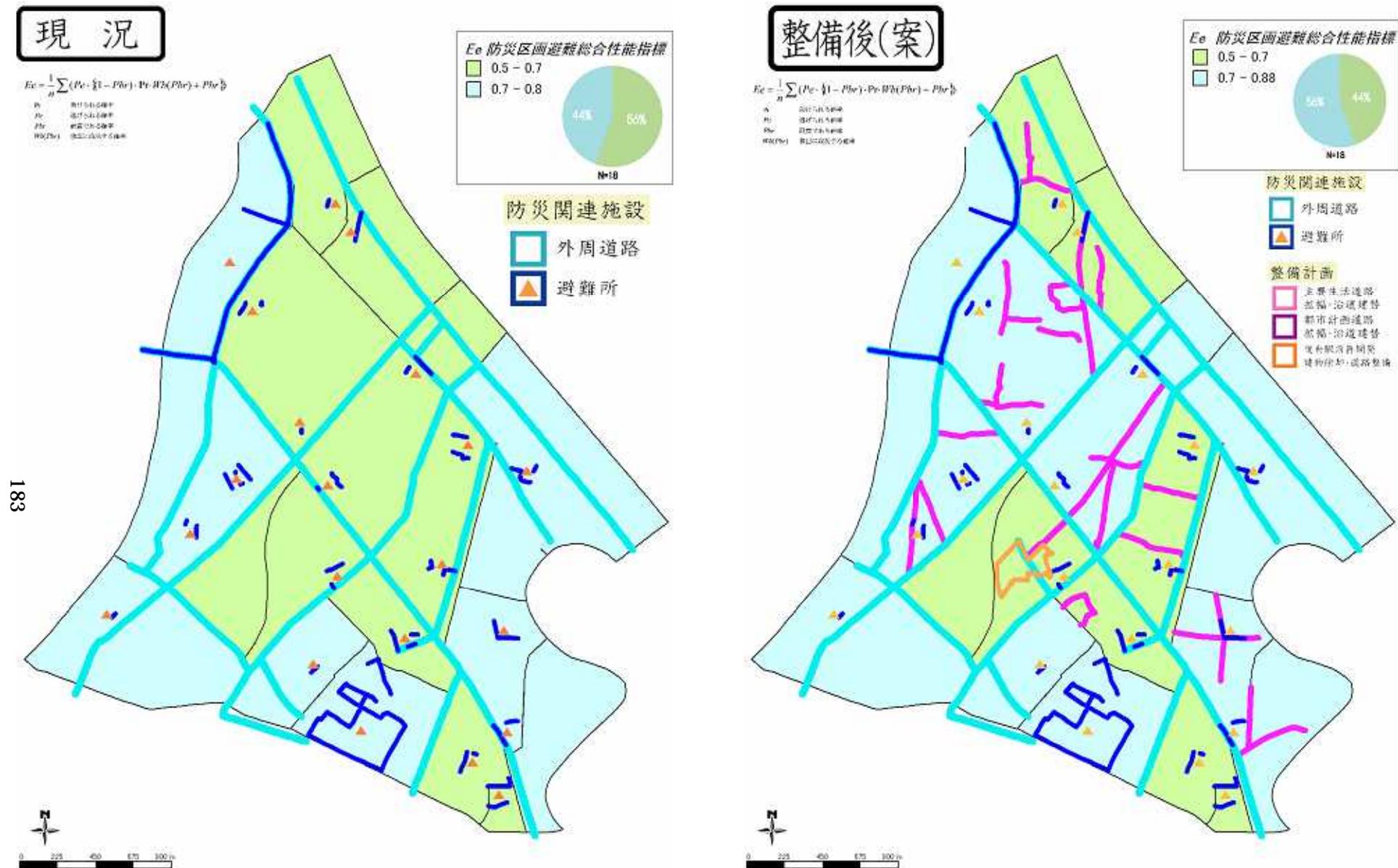


図 資-14 避難総合性能指標 E_e (壊れないまちづくりの指標) 防災区画単位

現況

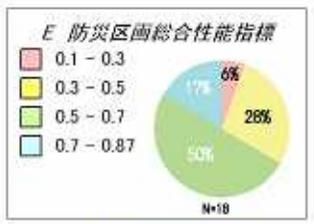
$$E = E_f \cdot E_e$$

$E_f = \frac{1}{n} \sum (Pp + (1 - Pp) \cdot Pp \cdot W(Pp))$

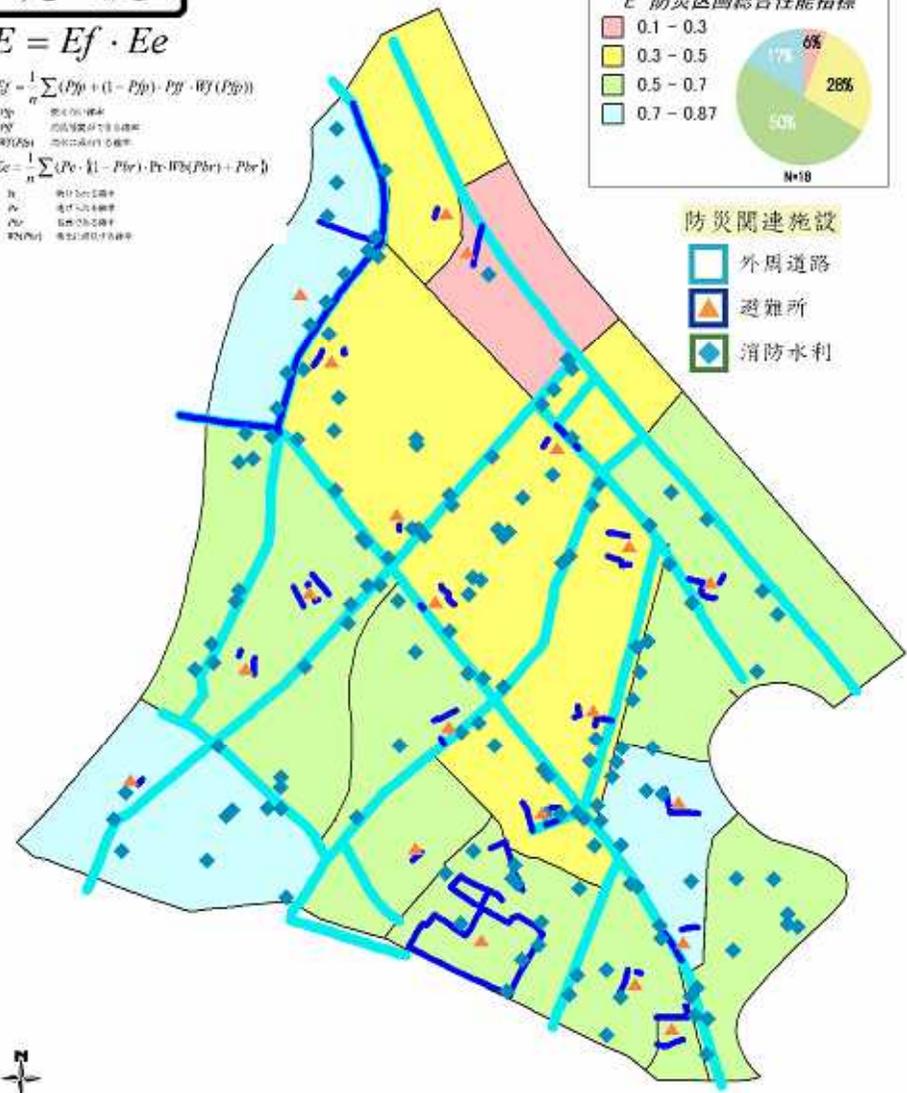
 Pp : 平均性能指標
 $W(Pp)$: 性能指標の加重係数
 n : 防災区画の総数

 $E_e = \frac{1}{n} \sum (Pe \cdot \{1 - Pbr\} \cdot Pe \cdot W(Pbr) + Pbr)$

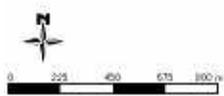
 Pe : 平均性能指標
 Pbr : 避難所性能指標
 $W(Pbr)$: 性能指標の加重係数
 n : 防災区画の総数



- 防災関連施設**
- 外周道路
 - 避難所
 - 消防水利



184



整備後(案)

$$E = E_f \cdot E_e$$

$E_f = \frac{1}{n} \sum (Pp + (1 - Pp) \cdot Pp \cdot W(Pp))$

 Pp : 平均性能指標
 $W(Pp)$: 性能指標の加重係数
 n : 防災区画の総数

 $E_e = \frac{1}{n} \sum (Pe \cdot \{1 - Pbr\} \cdot Pe \cdot W(Pbr) + Pbr)$

 Pe : 平均性能指標
 Pbr : 避難所性能指標
 $W(Pbr)$: 性能指標の加重係数
 n : 防災区画の総数



- 防災関連施設**
- 外周道路
 - 避難所
 - 消防水利
- 整備計画**
- 主要生活道路 拡幅・沿道整備
 - 都市計画道路 拡幅・沿道整備
 - 支線計画道路 拡幅・沿道整備

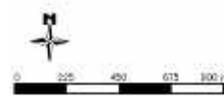
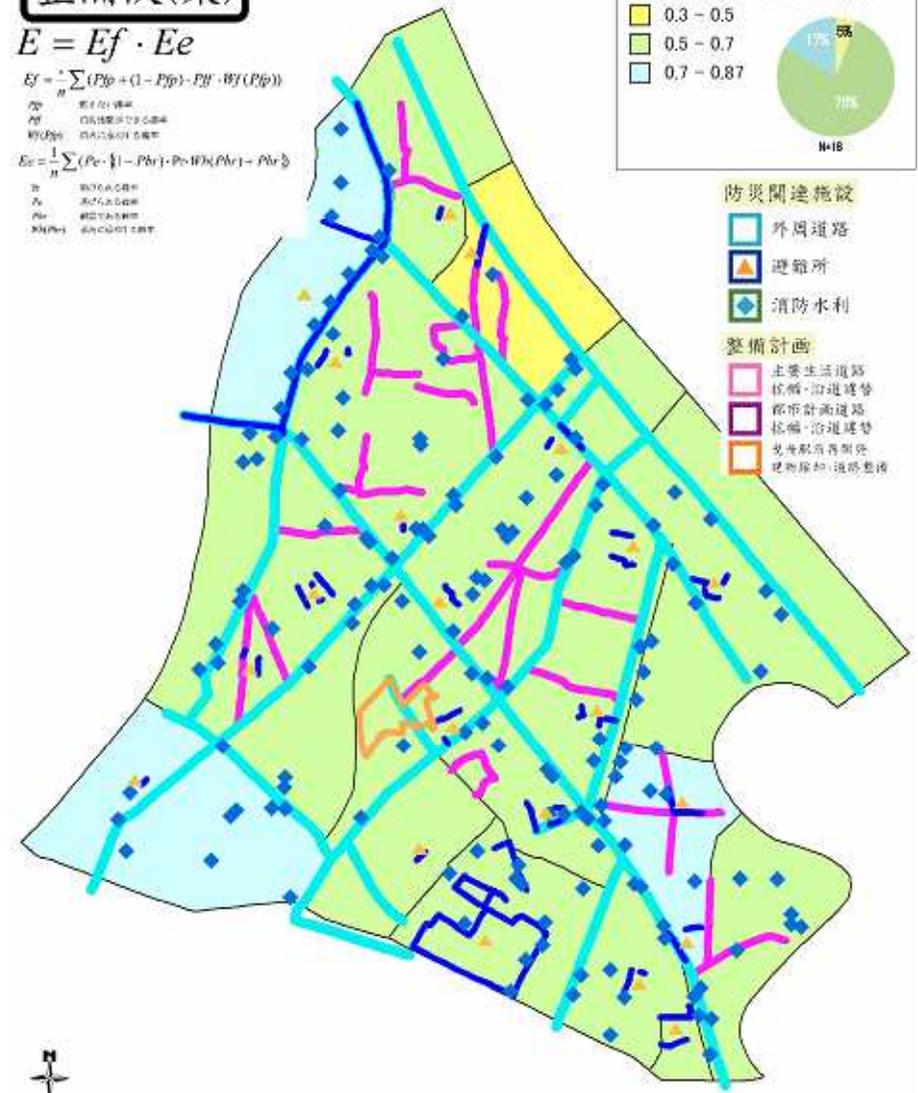


図 資-15 総合性能指標 E (防災まちづくりの総合的な指標) 防災区画単位

表 資-15 整備後（案）詳細

主要生活道路路線整備（拡幅・建替）								都市計画道路路線整備（拡幅・建替）								曳舟駅前再開発（建物除却・道路新設）				
以下の路線について、計画幅員に拡幅、さらに沿道の建物を100%建替えた。現況で、耐火・準耐火造の建物の構造はそのまま、防火造・木造については準耐火造へ、それぞれ建替えた。（すべての建物の建築年度は最新年となる） 整備案路線道路総延長：19.19km								以下の路線について、計画幅員に拡幅、さらに沿道建物の100%建替えを行った。現況で、耐火・準耐火造の建物の構造はそのまま、防火造・木造については準耐火造へ、それぞれ建替えた。（すべての建物の建築年度は最新年となる） 整備案路線道路総延長：6.67km								曳舟駅前地区計画を反映。 1. 計画地区内の建物を除却 2. 区画街路第3, 4, 6, 7号を新設（一部拡幅）				
路線番号	現況幅員(m)	計画幅員(m)	計画幅員にかかる建物(棟)	滅失(棟)	[A] 建替棟数(棟)	[B] 建替え棟数の内、木造・防火からの建替棟数(棟)	[B] / [A]	路線名(範囲)	現況幅員(m)	計画幅員(m)	拡幅方向	計画幅員にかかる建物(棟)	滅失(棟)	[A] 建替棟数(棟)	[B] 建替え棟数の内、木造・防火からの建替棟数(棟)	[B] / [A]				
3	3.68	6	26		26	21	80.77%	1001	補助120号線 (補助119~放13)	8	20	片側(南)	120	52	68	42	61.76%			
5	5.95	6	24		24	16	66.67%													
6	5.95	6	21		21	14	66.67%													
17	4.2	6	3		3	2	66.67%													
26	3.99	6	51		51	37	72.55%													
27	5.23	6	20	1	19	13	68.42%													
28	4.69	6	32		32	14	43.75%													
36	5.01	6	7		7	3	42.86%													
37	5.05	6	9		9	8	88.89%													
38	5.36	6	12		12	5	41.67%													
46	5.19	6	21		21	15	71.43%													
49	3.5	6	32		32	25	78.13%													
51	2.77	6	33		33	28	84.85%													
52	3.38	6	52		52	42	80.77%													
53	3.82	6	47		47	40	85.11%													
56	6.36	9	46	1	45	22	48.89%													
58	7.02	8	33		33	15	45.45%													
105	4	6	4		4	0	0.00%	1002	環状4号線 (放13~鉄押付2)	22	25	片側(北)	14	0	14	6	42.86%			
115	4.06	12	52		52	30	57.69%													
116	4.65	12	70		70	47	67.14%													
118	4.53	6	45		45	32	71.11%	1003	放射32号線 (環状4号~新あづま通り)	11	20	両側	143	13	130	79	60.77%			
144	5.73	6	52		52	33	63.46%													
150	0	6	0		0	0	-	1004	補助326号線 (放射32~曳舟駅前まで)	11	20	両側	24	2	22	6	27.27%			
179	4.4	8	58		58	51	87.93%													
201	4.49	12	8		8	5	62.50%													
226	8.89	0	0		0	37	-													
227	5.99	8	34		34	15	44.12%	合計								372	68	304	174	57.24%
228	6.34	8	26		26	14	53.85%	合計		818	2	816	605							
229	11.08	0	0		0	21	-	除却建物										整備後		



資料2 防災区画内市街地のシミュレーション（施策効果の比較）の結果

- ・ 防災まちづくり支援システムのシミュレーション機能を利用して、防災区画内市街地における、施策効果（A案・B案・C案）の比較を行った。

表 資-16 検討した施策パターン

(ア) A案

- 10年後の建物状況を想定。

現況に、自然更新率（10%）を反映、また都市計画道路を整備（計画幅員に拡幅後、沿道建物をすべて準耐火造に建て替える。（すべての建物の建築年度は最新年となり、それ以外の属性（階数、用途）は建替え前のものを引き継ぐ。）

- ◇ 自然更新率：年 1.0% * 10年 = 10%
- ◇ 都市計画道路 計画幅員に拡幅 沿道建替

(イ) B案

A案に、主要生活道路沿道建物のうち、木造・防火造の建物の60%を、準耐火造に建て替える。（すべての建物の建築年度は最新年となり、それ以外の属性（階数、用途）は建替え前のものを引き継ぐ。）

- ◇ 自然更新率：年 1.0% * 10年 = 10%
- ◇ 都市計画道路 計画幅員に拡幅 沿道建替
- ◇ 主要生活道路 計画幅員に拡幅 沿道建替

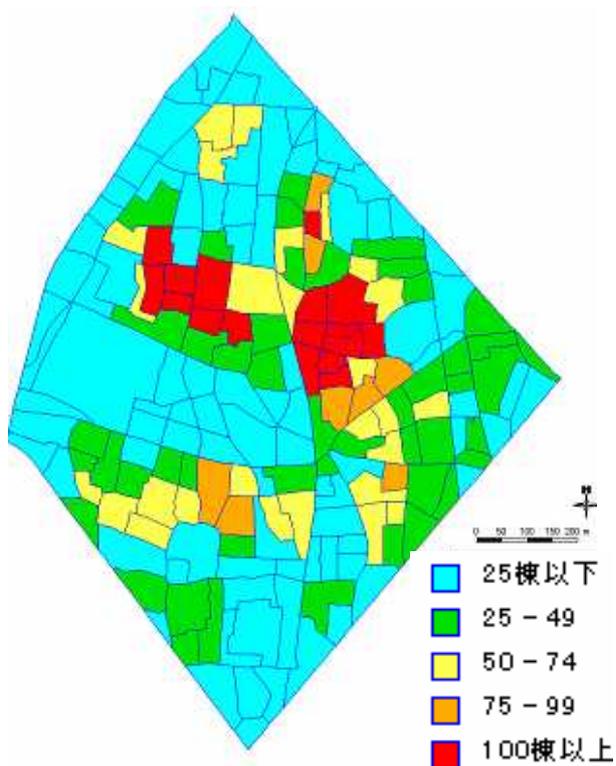
(ウ) C案

A案に、B案で建て替えた建物棟数分を全域に振り分けた場合を想定。（A案 + B案の路線建替え分を比率に直し、自然更新率に追加。）

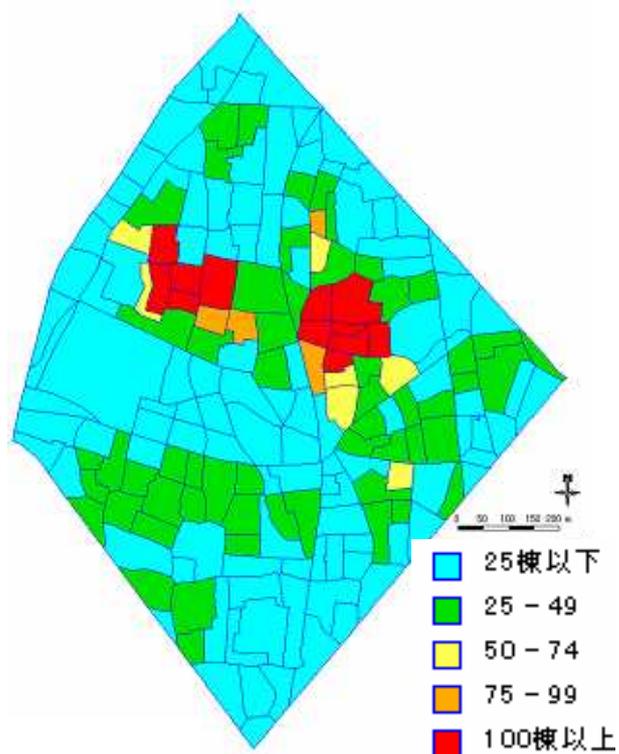
- ◇ 自然更新率：(年 1.0% * 10年) + 5% = 15%
- ◇ 都市計画道路 計画幅員に拡幅 沿道建替

自然更新の対象となる建物は、図 1-1-86 参照。

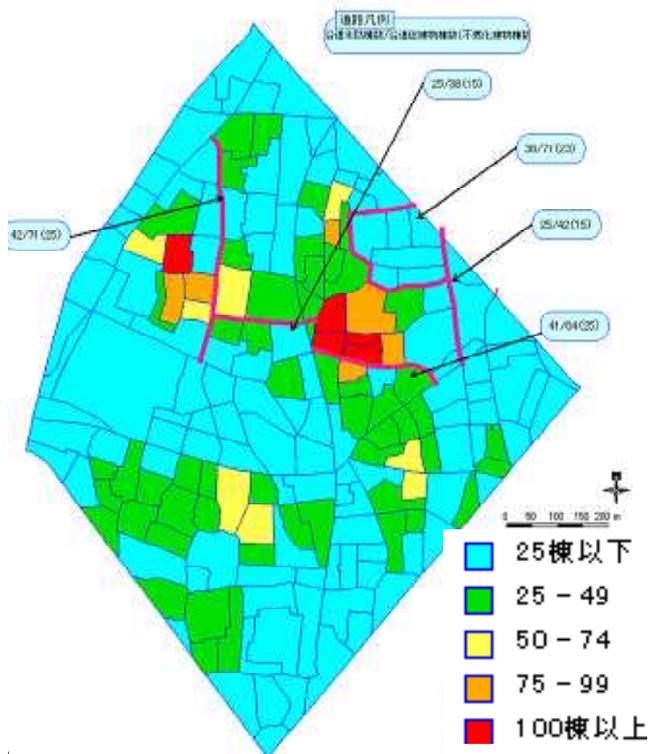
注) 延焼に関するシミュレーションでは、すでに存在している木造の準耐火造は、施工上の問題から十分な防火性能が期待できない可能性が高いため、安全側をみて、防火木造と同等の性能を有するものとしている。一方で、A案～C案で新規に建設する事を想定している準耐火造については、適正な施工がなされることを前提に、木造の準耐火造はS造(鉄骨造)の準耐火造と同等の防火性能を有するものとしている。



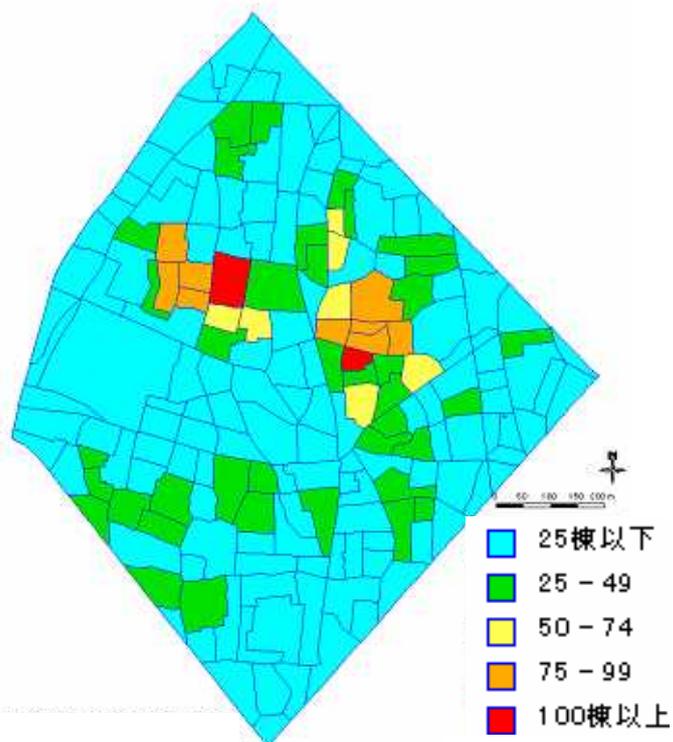
現況



A案 377棟更新(除却52棟)



B案 480棟更新(除却52棟)



C案 545棟更新(除却52棟)

図 資-17 鐘ヶ淵地区における【延焼】危険度(2時間延焼棟数)による比較(風速6m/sec)

資料3 調査の体制

- ・本調査の遂行にあたっては、委員会とワーキング部会を設け、各々4回の会議を実施、調査内容の精査・検討を行った。

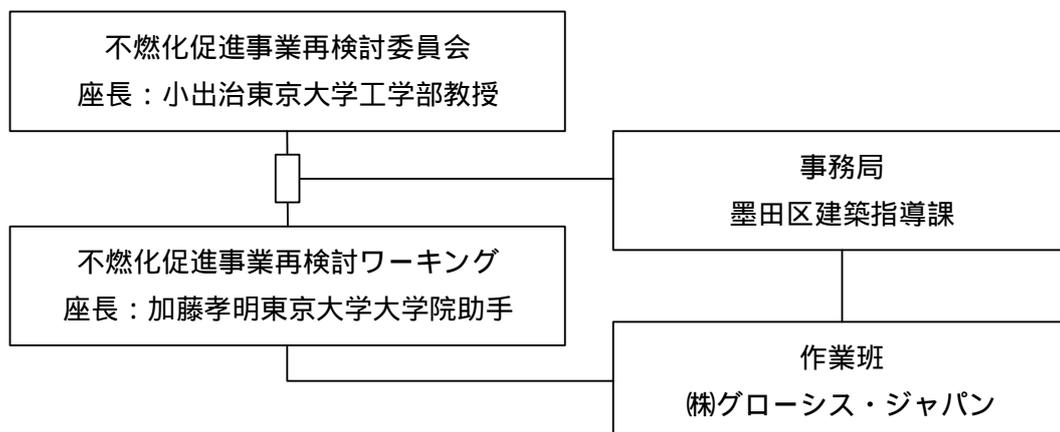


図 資-18 本調査の検討体制

表 資-19 委員会及びワーキング部会の開催日程と討議内容

開催日時	会議名	討議内容
平成 18 年 8 月 10 日	第 1 回 ワーキング部会	・ 調査の趣旨 ・ 不燃化促進事業の現状と課題
平成 18 年 9 月 14 日	第 1 回 検討委員会	・ 調査の趣旨 ・ 不燃化促進事業の現状と課題
平成 18 年 9 月 26 日	第 2 回 ワーキング部会	・ 不燃化促進事業見直しの検討課題 ・ 木造密集市街地における建物耐火性能向上に向けての課題
平成 18 年 11 月 1 日	第 3 回 ワーキング部会	・ 延焼遮断帯の性能評価 ・ 不燃化促進事業の見直しの方向
平成 18 年 11 月 7 日	第 2 回 検討委員会	・ 延焼遮断帯に性能評価 ・ 不燃化促進事業の見直しの方向
平成 18 年 12 月 6 日	第 4 回拡大 ワーキング部会	・ 不燃化促進事業の見直しの方向 ・ 木造準耐火構造の防災性能確保方策
平成 19 年 2 月 27 日	第 3 回 検討委員会	・ 防災面からみた目指すべき市街地像とその実現化方策 ・ 市街地性能評価
平成 19 年 3 月 22 日	第 4 回 検討委員会	・ 報告書案の検討

表 資-20 参考資料-2 不燃化促進事業再検討調査 検討委員会及びワーキング部会名簿

検討委員会委員名簿		
役 職	名 前	現 職
委員長	小出 治	東京大学教授
副委員長	中林 一樹	首都大学東京教授
委 員	長谷見 雄二	早稲田大学教授
委 員	室崎 益輝	総務省消防庁消防大学校 消防研究センター所長
委 員	根本 祐二	東洋大学教授
委 員	関 満博	一橋大学教授
委 員	岡田 貢	墨田区企画経営室長
委 員	藤田 彰	墨田区地域振興部危機管理担当部長
委 員	渡会 順久	墨田区都市計画部長
委 員	渡邊 正雄	墨田区都市計画部都市整備担当部長
ワーキング部会委員名簿		
役 職	名 前	現 職
部会長	加藤 孝明	東京大学都市工学科助手
副部会長	市古 太郎	首都大学東京都市環境科学研究科助手
委 員	安井 昇	桜設計集団一級建築士事務所代表
委 員	竹井 隆人	住宅金融公庫首都圏支店 まちづくり推進グループ調査役
委 員	山藤 竜太郎	一橋大学大学院商学研究科講師
委 員	坂本 康治	墨田区企画経営室政策担当課長
委 員	天野 茂	墨田区地域振興部危機管理担当防災課長
委 員	池田 成美	墨田区都市計画部都市計画課長
委 員	沖田 茂	墨田区都市計画部建築指導課長
委 員	小山 季廣	墨田区都市計画部都市整備担当都市整備課長
ワ`ザ`-バ`-	松井 伸二	日本政策投資銀行首都圏企画室長
ワ`ザ`-バ`-	遠藤 健	日本政策投資銀行首都圏企画室調査役
	事務局	墨田区都市計画部建築指導課
	作業班	株式会社グローシスジャパン

墨田区不燃化促進事業再検討調査報告書
平成 19 年 3 月

発 行 墨田区都市計画部建築指導課
〒130-8640 墨田区吾妻橋一丁目 23 番 30 号
03-5608-1111 (代表)
